別紙様式例

平成２８年 7 月 6 日

運輸審議会
会長　　鷹箸　有宇壽　殿

公　述　申　込　書

運輸審議会一般規則第３５条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1　公述しようとする事案
事案番号　　平２８第４００１号
事案の種類　　軌道運送高度化実施計画の認定
事案の申請者　　宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2　公述しようとする者　※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照
(ふりがな)　ぼん みのる
氏　　名　伴 実
(郵便番号)　〒[redacted]
住　　所　[redacted]
職　　名　ゆいの杜自治会長
年　　令　69 歳

3　事案に対する賛否
賛成

4　利害関係を説明する事項　※利害関係人のみ記入（注意事項③参照）

5　自宅、勤務先等の連絡先電話番号
[redacted]

国土交通省 運審第 37 28.7.6

【まちの魅力向上につながるＬＲＴ事業】

清原の魅力と活力を高めるＬＲＴ整備事業に期待

◎　導入

・　このたび、宇都宮市、芳賀町及び宇都宮市ライトレール株式会社からの軌道運送高度化計画の認定に関する公聴会の開催に当たり、事業に「賛成」の立場から意見を述べる。

◎　清原のまちづくりについて

・　私たちの住む清原地区は、地域住民自らが、地域主体でまちづくりを積極的に進めており、宇都宮市長からも「まちづくりのリーダー」とお褒めの言葉をいただいている。

・　例えば、宇都宮市では現在、市内３９の連合自治会単位に、自治会や子ども会育成会、防災会、地区社会福祉協議会、体育協会など、地区のさまざまな団体が構成員となった「まちづくり組織」が設置されており、各地区のまちづくりに関する課題に地区が一体となって取り組むようになっているが、この組織の立ち上げを地域自ら、いち早く立ち上げたのが、わが清原である。

・　清原地区では、昭和５０年代に、将来の清原の発展と住みよいまちづくりを推進するため、地域全体で一致協力して取り組むことが必要、との考えから、自治会連合会をはじめ、あらゆる地域団体をメンバーに「清原地域振興協議会」（設立当初の名称は「清原地区地域振興推進協議会」）という「まちづくりのための組織」を立ち上げた。

・　この「清原地域振興協議会」では、地域のさまざまな課題、すなわち、交通弱者対策などの交通問題や、不法投棄などの生活環境問題に地域として何ができるかを考え、地域自らが運営する地域内公共交通の整備や、宇都宮市の担当部署の協力を得ながら不法投棄場所の改善などにも取り組んでいるところ。

・　こうした取組の中で、バス路線のない地区内の移動手段を確保するため、地区の大規模住宅団地「清原台」周辺を中心に乗り合いタクシーが路線バスのように走る「清原さきがけ号」の運行をスタートし、また、地区北部の農村地帯では、地域の方の自宅から目的施設まで随時、送迎する、いわゆるデマンド型のタクシーとして「板戸のぞみ号」を運行しており、地域の大切な足として活用されている。

・　移動を車に依存してきた人にとって、所定の時間、場所の移動を支える地域内公共交通は、必ずしも使いやすいものではないが、車を運転できない人の代替交通手段として機能しており、利用者の大部分の声が地域内の移動手段として利便性を感じているものの、市街地へ行く場合、接続も悪く路線バスの本数が少なく不便を感じている。

◎　特徴的な取組

・　また、清原地区では、年間を通し、市民マラソン大会や、自転車のプロのレースであるＪプロクリテリウムといった全市的なイベントが開催されており、このイベント開催に際して、地元の郷土料理である「鬼怒の船頭鍋」の提供など、清原地区をあげて、「おもてな

し」の事業に取り組んでいる。

◎　今後に向けたまちづくりの課題とＬＲＴの必要性

・　現在当地区は、都市交通を自動車に依存した都市構造を構成しており、高齢者や児童等のいわゆる移動制約者に対する生活の足の確保が重要な課題であり、コミュニティバス等を運行させ、生活の足の確保をしているものの、将来に渡って維持していくことに課題を抱えている。

・　交通事業者の不採算路線からの減便が進み地域の足が確保され高齢者等が、移動を家族の送迎に頼っているのが実態である。行政サービスは運転免許を持たない人や高齢者等すべての人に平等に与えられる必要があり、公共交通機関の運営に際しては採算性にこだわらない見方をすることも必要と思われる。このため、ＬＲＴの導入後もバス路線維持について、交通事業者のみならず行政や地域住民が相互一体的に、支援していく必要もある。

・　総務省が６月２９日に公表した２０１５年度実施の国勢調査速報によると、栃木県人口に占める６５歳以上の割合（高齢化率）は２５．８％と前回調査より増加しているとのことであり、今後さらに高齢化が進むことは避けられない状況下にあります。高齢者は身体機能の低下から、外出頻度の低下や、交通事故の多発等が問題視されており、今後、高齢化の進展に伴いこの傾向が一層強まると予想される。公共交通は身近で安全性の高い交通手段であり、高齢者に対応した公共交通利用のやさしいシステムやサービスの提供は福祉政策としても重要に思う。

・　都市計画によりテクノポリス地区の人口は急速に増加しており、児童増加に伴い新たに小学校の新設が決定したが、現状当地区には高等学校が２校であるが、９割の学生は自転車で１時間以上かけ通学しており、通学途上の事件・事故発生の可能性もあり問題となっている。公共交通は、高齢者や学生等運転免許を持たない人にとって重要な交通手段であり、通学、通院、買い物当の日常活動を支える上で重要な役割を担っている。

・　当地域は人口増加に伴い自家用車依存の高まりから、交通事故の増加や自動車ＣＯ２排出量の増加等交通環境の悪化が進んでいる。１台当たりの輸送効率が高い公共交通は自動車の総量を削減し、環境に優しい輸送手段である。

◎　ＬＲＴ事業への期待

・　こうしたさまざまな「まちづくり」に、私たち清原地区として、皆で協力して、一所懸命に取り組んでいる。

・　しかしながら、今、そしてこれからの地域を考えると、一人暮らし・夫婦だけで暮らすようなお年寄りの増加など高齢化の問題、自治会に加入しない世帯が増えることでの顔の見えない地域、コミュニティの希薄化の問題など、決して明るくない要素も見据えていかなければならない、と考えている。　どうしたらそのような課題を解決していけるか、もちろん、我々がさらに一所懸命に汗をかいていくことも必要であるが、宇都宮市など、公共機関とも連携、協力していかなくてはならない。

・　そうした宇都宮市の事業の中でも、ＬＲＴ事業は、まちづくりのさまざまな課題解決にもつながる、とても大きな効果が期待できるもの、ととらえている。

・　なぜなら、先に述べたように、ＬＲＴが通り、さきがけ号やのぞみ号などと上手く連結されることで、高齢者をはじめ地域の方の移動が飛躍的に改善されること、地域の魅力が高まることをきっかけに、地域コミュニティにも目を向けて関心が高まっていくことも期待できる。
・　さらに、ＬＲＴの沿線では、停留所を活用した地域のおもてなし施設などができれば、清原の魅力をより多くの人に発信できるチャンスにもなるのではないか、と考えている。

◎　まとめ
・　私たちとしては、ＬＲＴは単に移動手段ではなく、私たち地域の使い方によって、まちの更なる魅力づくりや、活力向上にもつながっていける潜在力を持っている、と捉えている。
・　どうか、一日も早い事業認可、そして一日も早い運行開始をお願いしたい。